



テアトル9ニュース

お芝居大好き！九条の会
2014年8月18日 第58号

お芝居大好き！九条の会～テアトル9 って何??

2004年、井上ひさし、大江健三郎等9名の著名人が日本国憲法九条を守る「九条の会」を結成。その呼びかけに応え、演劇鑑賞会の会員有志で2005年「お芝居大好き！九条の会～テアトル9」を作りました。

国会議事堂前抗議集会（7月1日）に参加して その1

集団的自衛権行使容認閣議決定、論理も手続きも、あまりにも無茶苦茶な歴史的汚点の日、東京メトロ、国会議事堂前に向かいました。着いた時はもう夜9時を廻っていました。地上へ出る階段を上る途中から、既にシュプレヒコールが聞こえます。階段は、人通りはまばらでしたが、駅を出た外は、帰宅するサラリーマン、官公庁の職員、警察官、取材陣、カメラマン、そしてデモ参加者か、あちこち様々行き交います。官邸前から、道路を挟んで対角線、声高く叫ぶ最前線へと進みます。人の波がどんどん激しく、ごった返し、広い通りがさながら満員電車のように、ぎゅうぎゅう詰めになっていきます。

最初に思った事。昨年暮れの特定秘密保護法の時よりも、随分と、若い人が多い、という事。30代、20代、そして10代とおぼしき学生さんらしき人も多い。シュプレヒコールの先導も、若い声です。太鼓のリズムに合わせ、皆、拍手しながら、声を揃えます。「ファシスト、やめろ!」「戦争、反対!」「憲法、守れ!」「9条、守れ!」「安倍は、やめろ!」「今すぐ、やめろ!」何度も何度も、繰り返します。

次に、思った事。先導者が若い事もあり、過激なコールも度々起こります。ヘイトスピーチに聞こえてはいかん、という事。少なくとも、そう反撃される口実を与えてはいかん、という事。「クタバレ!」という表現は、逆手に取られる恐れがあるな。そんな気がしました。

一番強く感じた事。世論は明らかに大きくなっている、という事!新聞、インターネット、その他の世論調査、過半数を越える反対、それを生で実感します。自分よりも若い人がこんなにも多い。それをとても頼もしく思います。正しい事が、権力の数の驕りで潰されかねない世界。あの手この手の懐柔と恫喝、誹謗中傷を打ち破るには、こちらこそ、数の力が、最大必要である!という事を思いました。尻すぼみにならないようにしないと。ほとぼりが冷めるのを待つのは、ワルの常套手段。しかしながら、こちらはこちらで、僕もなかなか周りには、正しい事でも話し辛い。それでも、断固反対、国会軽視許すまじ、世論無視赦すまじ、その一点共同、それが、もっともっと大きくなるようにしないと。個人的な制約もあり、勇気も大変小さいですが、尻すぼみにだけはならないように。そう思いました。名護市長選、滋賀県知事選で、ざまあみろ!そして福島、沖縄県知事選へ。世論は、勝てる!と思います。また、そちらのお話も聞かせてください。

(デモの参加者)



NHK や大手マスコミに負けてられない!

私たちの生活に欠かせないニュースや新聞。多くの人はその情報が正しいと思っています。しかし本当にそうでしょうか。毎日安倍首相の顔を見せられるNHKのニュースや大手マスコミの記事に対して腹立たしいと感じたことはありませんか。苦情を言ってもやろうと思ってもなかなか実行に移せませんでした。行動することがうとうとして過ぎていました。しかし、先日神戸新聞(7月16日付け夕刊)の記事に接して、すばらしい文章に励まされ投書することにしました。その内容を書き終えてテアトル9のメンバーに話したときのスッキリしたこと、実行することが一番です。その記事のコピーと私が感じたことは次の通りです。

「何度読み返しても胸がスキッとす。短い文章なのに言いたいことがまとめられている。「安倍内閣の暴走はひどすぎる。」「市民の声や…耳を貸そうともしない。」「…言動が非難されると我関せずを決め込む。」「誰も頼まないことばかりに熱心な…」「国民への説明は情緒的だ。」「“お友達”に囲まれて他人の意見を聞こうとせず、自分に酔った弁舌を長々と続けるお坊ちゃまが、…」そして最後に「平和憲法の堅持こそが家族や暮らしを本当に守る。」と、素晴らしい文章と出会いました。今年一番の収穫です。NHK や大手新聞社などマスコミは戦前に戻ってしまったように「政府は」「首相は」といった論調です。今は一人でも多くの人が思ったことを表現していかなないと、戦争が起きてしまっただけでは誰も止められません。」

(Q サークル梶原)



～ お芝居と平和 ⑦ ～

1967年1月例会『瀬戸内海の子供ら』

「お芝居と平和」について考える、が、なかなか浮かんでこない。仕方がないので『広辞苑』の助けを借りてみる。「平和」①平らかに和らぐこと。おだやかでかわりのないこと。②戦争がなくて世が安穏であること。とあります。

戦後70年近く、我が国では戦争を行っていません。このことはギネスものではないでしょうか。ときに「平和ボケ」というような言葉が飛んできたりします。

では戦後の歴史を振り返ってみて、本当に「平和」が連綿とあったのでしょうか？世界的に見ると戦争のない時は見当たりません。世界が平和でないのに、日本だけが平和というのでしょうか？私はこのようなことは絶対にありえないと考えます。「戦争はダメ！」という思いが、声となり、運動となって日本が戦争をするのを押しとどめてきたのだと。

そこで「お芝居と平和」になるのですが、神戸労演から神戸鑑賞会に至る今日までに上演されたほとんどの芝居がこれにあたるのではないのでしょうか。よく言われるように「平和でこそお芝居が演じられ、観ることができる」と。

そんな中での私のおすすめは『瀬戸内海の子供ら』（小山裕士作）です。軍靴の音がせまる中、一見何事もなく過ごしている瀬戸内海の日常を描いて、それこそが守るべきかけがいのないものと作者・小山裕士が提示しました。戦中に書かれ、上演（文学座）され、民藝が宇野重吉・細川ちか子・清水将夫・伊藤孝雄・草間靖子らによって復活させました。

（垂水かんげき！同好会 サークル 松本 徹）

他人の喧嘩を買いに行ったらどうなるのか？

「集団的自衛権」という言葉は、今や政治に無関心だった人の耳にも届いている程、連日のようにテレビや新聞で取り上げられていますが、はたしてどれだけの人に、正しく内容を理解されているでしょうか？

これは、神戸の街頭演説会で、泥憲和（元自衛官）さんが飛び入りでマイクを握って「集団的自衛権」に反対の思いを訴えた内容の一部です。とてもわかりやすく、元自衛官の訴えだけに説得力を持っている内容なので、是非、多くの人に読んでほしいと思います。

「・・・いま私が反対している集団的自衛権とは、そういうものではありません。日本を守る話ではないんです。売られた喧嘩に正当防衛で対抗するというものではないんです。売られてもいない他人の喧嘩に、こっちから飛び込んでいこうというんです。・・・みなさん、軍隊はテロを防げないんです。世界最強の米軍が、テロを防げないんですよ。・・・」

全文を載せられないのはとても残念ですが、HP（URL <http://www.labornetjp.org/news/2014/0702doro>）で見ることができますし、全文のコピーも用意していますので世話人まで。（Y・K）



☆☆☆ お知らせ ☆☆☆

『標的の村』上映会 &

三上智恵監督のお話

沖縄の現実、事実を皆さんに知っていただきたい

日時 9月27日(土) 上映1回目13:30～15:01

講演 15:10～16:10

上映2回目16:30～18:01

場所 上宮川文化センター 3階ホール(JR 芦屋)

参加協力券 1,000円 主催 芦屋九条の会

※参加協力券、演劇鑑賞会事務局で預かってます

例会場「テアトル9コーナー」にお立ち寄りください！

テアトル9グッズのプラバン、また賛同者の方にはニュースを

用意しています。カンパも大歓迎！ ご連絡は下記まで

児玉 090-8209-2391 米田 090-8658-8579

谷中 090-2101-4579 田中 090-8493-3378



お知らせ

☆「憲法9条を世界遺産に」の署名が集まってきています。引き続きよろしく願います。

☆「沖縄にこれ以上基地をつくらせません！」に賛同意見広告を「お芝居大好き！～テアトル9」で出します。毎日新聞（全国版）に掲載されます。